

熊本城 復興に向けて

〈22〉 天守閣の復旧

被害状況

熊本城天守閣は昭和35年に鉄骨鉄筋コンクリートで再建された建造物ですが、熊本地震による被害は大きく、大天守は最上階である6階の瓦がほとんど落下して下階の瓦を割り、6階内部は柱の根元が激しく損傷していました。小天守は下部の石垣が崩壊したため、石垣に支えられていた部分の床が沈下し、ひび割れが生まれました。ある程度の予想はしていましたが、大小天守ともコンクリートの壁や床に多くのひび割れがあることが復旧工事の過程で分かりました。

また、天守閣への主要ルートに位置する南大手門と頼当御門周辺の石垣も崩壊し、平左衛門丸と天守閣前広場へ歩いて近寄ることすら難しい状況でした。

復旧に向けた取り組み

復旧に向けてまず取り組んだ被害状況調査の結果、破損がひどい箇所があるものの杭は健全であり、建物は補修を行えば復旧できることが分かりました。そこでさらに詳細な調査・検討・設計を行い、具体的な工事の準備に入りました。

また、同時に天守閣前広場への工事用動線の確保のため、南大手門では崩落石材を回収・保管した後、鉄骨の構台を組むなど、建造物倒壊防止と石垣崩壊防止の措置を実施しました。頼当御門から平左衛門丸、平左衛門丸から天守閣前広場の計2か所には、石垣を飛び越える形状で長さ約100mと約50mのスロープを設置しました。こうして天守閣の本格的な復旧への準備が整いました。

復旧の方針

天守閣の復旧にあたり、被災前と同様に多くのお客様を迎えるためには、安全性の確保・向上が最優先と考えました。そこで、再び熊本地震のような規模の地震が来ても建物が倒壊しないようにブレース※や耐震壁などによる耐震補強を行い、既存の杭への影響を抑えるためにダンパーなどの制振装置も設置するほか、屋根は軽量化を図り、瓦の飛散防止のため銅線と釘で下地に固定するなどさまざまな手法を取り入れています。



▲大天守6階鯨設置作業状況
(平成30年4月)



▲天守閣東面外観(平成30年12月末時点)

また、火災の予防・被害拡大防止のため、消火設備・自動火災報知機・防火区画・非常照明設備・誘導灯などを設置し、万が一の場合にも備える対策を施します。

さらに、バリアフリー化や展示・内装の刷新にも取り組んでいます。既存建物の構造上などの制約が多いため、サイズが小さなものですが新たにエレベーターを設置するなど、これまで建物に入ることが困難だった方も利用できる施設を目指しつつ、模型・映像なども取り入れ、展示パネルの文字・色調・解説文も工夫して分かりやすい内容にしていきます。

復旧のスケジュール

2017(平成29)年4月から本格的な復旧を開始した天守閣は、2018(平成30)年4月に大天守のしゃちほこを設置完了、2018(平成30)年7月には石垣の積み直しを開始するなど、順調に復旧が進んでいます。

今後は、2019(平成31)年10月に大天守外観復旧を予定しており、合わせて城内の特別公開を計画しています。公開日は原則日祝日、公開範囲は二の丸駐車場から天守閣前広場までの一部です。(公開範囲・時間などは曜日・時期により異なります。)

2021(平成33)年の春には大小天守の全ての工事完了を予定しており、その後の準備期間を経て、天守閣の内部まで公開できるように全力で取り組んでいるところです。

※ ブレース…柱と柱の間に斜めに入れて建築物の構造を補強する部材のこと。
「筋交」「筋違」ともいう。

(熊本城総合事務所 城戸 秀一)